

会報

◇奈良大学史学会総会

五月二十五日(土)、本学において、第二十回奈良大学史学会総会を行った。二〇〇一年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで二〇〇二年年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

二〇〇二年年度の役員は以下の通り。

▽会長 寺崎 保広

▽副会長 守山 記生

▽教員委員

(編集) 菅野 正

(会計) 青木 芳夫

(庶務・交換) 森田 憲司

(監査) 鎌田 道隆

丸山 幸彦

▽学生委員

(代表) 窪田 紘之

(総務局長) 河野 里香

(広報局長) 北田真知子

(青垣祭企画実行局長) 木下ちひろ

(四回生委員) 伊藤 大樹 上田 哲平 尾上由希子

片山 泰宏 鎌田 康治 児島 寛 坂田陽一郎

坂本 昌隆 鈴木 啓史 高橋 広光 長 奈保子

田口 直人 花房 浩輔 矢津 聡子 山本 勝

(三回生委員) 岡本 隆浩 荻野衣梨子 木元 雅也

小霜 浩司 人見 麻生 松岡 圭佑

(二回生委員) 桑木健太郎 清水 勇樹 鈴木 禎匡

玉野 将史 松井 勇治 広瀬 茜

(一回生委員) 石谷林太郎 塩田 篤司 四宮 啓司

白井巳古都 鷹野 義朗 丹所 宏介 富田 直美

堀 仁美 三浦由紀子 宮本真理子

◇特別講義

五月二十五日(土)、史学会総会に引き続き、特別講義が行われた。講師・演題は以下の通り。

朝治 啓三氏(関西大学文学部教授)

「十三世紀イングランドの王国共同体」

松尾 尊允氏

(京都大学名誉教授、京都橘女子大学教授)

「大正デモクラシーと戦後民主主義」

◇史学体験ツアー

毎年恒例となった史学体験ツアーは、本年度も総務局が中心となり企画され、六月十五日(土)、「奈良寺散策ツアー」が実施され、興福寺、東大寺を散策した。本学科の学生の参加が多く、好評であった。ついで、十一月十六日(土)には「秋色の京都散策ツアー」が実施され、紅葉を楽しみながら京都四条を散策し、参加者の好評を得た。史学会の行事として定着してきている。

◇「史学会会報」等の発行

奈良大学史学会の活動の普及を目的として、「史学会会報」を二ヶ月に一回発行し、史学会の企画案内、各地の史跡や祭事等を掲載した。

また、本年度も一回生を対象に来年度以降の講読・ゼミを決定する上での参考資料として、各ゼミに所属する学生の執筆による「講読紹介」を発行した。

◇青垣祭

昨年度に引き続き、青垣祭(学園祭)に出展した。本年度は「革命の世紀」のテーマで展示発表を行った。会場では一八、一九世紀のヨーロッパをパネル・模型で紹介したうえ、原寸大のギロチンを展示し、来場者には、実際にギロチンが体験できる参加型の展示を試み、好評を得た。

また、これまでの一八、一九世紀のヨーロッパについての研究をまとめたレジュメを作成し、来場者に配布した。

十一月二日(土)から十一月四日(月・祝)の三日間で延べ二五〇人の来場者に来ていただいた。

ご協力いただいた方々には深くお礼を申し上げる次第である。

◇会員動向

○寺崎保広氏(日本古代史担当)は、今年二月、「藤原京の形成」(山川出版社、日本史リブレット)を出版した。

○丸山幸彦氏は、本年四月史学科に着任された。学部と大学院において、日本中世史関係の講義・講読・演習等を担当されている。

○青木芳夫氏(西洋近現代史担当)は、C・L・R・ジェ

ームズ「ブラック・ジャコバン―トウサンルヴェルチ
ユールとハイチ革命―」増補新版（大村書店）を六月に
翻訳出版した。また、七月三十日から八月二十一日まで
の間、奈良大学研究助成によりペルーを調査旅行した。

○北村麻子（栗原麻子）氏（西洋古代史担当）は、二年間
のオックスフォード大学での在外研修を終えて帰国し、
本年後期より授業をおこなっている。

○菅野 正氏（東洋近現代史担当）は、『清末日中関係史
の研究』（汲古叢書四一）を、本年十月、汲古書院より
出版した。

○藤井 学氏は、体調不良のため二〇〇二年十一月末をも
って奈良大学学長を辞任され、奈良大学を退職された。

○鎌田道隆氏（日本近世史担当）は、十二月より、奈良大
学学長に就任された。

平成十三年度史学科卒業論文題目

【日本史】

八世紀前半の皇位継承について

赤石 融

古代行幸考

―天皇の臣下邸行幸―

飯塚 直樹

大仏建立に関わる行基の役割

京戸について

井田 博
江原 久美

―平安初期の京貴記事をめぐって―

古代における吉野行幸について

大本紗英子

―持統天皇を中心に―

古代の外国使迎接について

栗田さやか

―八世紀の大臣と太政官の役割を中心に―

奈良時代における外位制度についての一考察 河野 健作

―神龜五年格と内・外位制―

日本古代の女官について 小島有里子

日本古代奴隸制度（特に家人・奴婢）について

木庭 裕介

蝦夷の朝貢と饗給についての一考察

澤 英利

陰陽寮の職掌について

芝 華恵

奈良時代末期から平安時代初期における仏師の動向

白木 衛

東大寺の成立に関する一考察

高野 圭亮

古代の女帝

— 考謙・称徳天皇について —

竹内 陽子

後南朝と長祿の変について

新井 一史

雅楽寮の成立について

友前 昌子

中世における茶の普及について

石原 愛子

桓武朝の政策について

中井 智教

— 鎌倉時代における茶についての考察 —

植松さやか

— 年分度者改革の再検討 —

中村 友洋

奈良時代の浮浪・逃亡について

根岸 直威

— 瀬戸内海制海権の掌握に関連して —

大西 由子

律令国家における將軍号の考察

平野 杏奈

— 放氏を中心として —

日本衣服令に関する一考察

福原 寛史

南北朝内乱期の和泉国和田氏にみられる在地領主制の変質

— 衣服令武官礼服・朝服条を中心に —

水野 祐輔

— 川田 祐介

阿倍氏に関する一考察

室町後期の京都における河原者の活動と東山文化の発展

— 善阿弥を中心に —

園池司について

南 亨

— 齊藤 秀

— 苑と園の実態から見た職制 —

月本 幸二

— 澤木 信宏

古代交通と本貫地主義

— 橋における交通検査 —

— 足利尊氏の権力形成を中心に —

律令官人制に関する一考察

木下 一誠

— 十六世紀中葉における大山祇神社・三島村上水軍と大名勢力による統治的關係について —

— 大宝令制の少納言について —

— 因島村上氏を中心にして —

— 竹岡 健次

古代日本海域における対外交流

— 日渤海間における文化意識について —

— 渥美さとみ

— 足利義光の「王権篡奪計画」について

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

足利義光の「王権篡奪計画」について

渥美さとみ

竹岡 健次

戦国時代後期における美作の国人の動向 田淵 暁

戦国末から慶長初期にいたる石見銀山の歴史的役割とその意義について 永井 真人

伊予国弓削島荘について 西上久美子

—悪党弁房承管に関する一考察—

織田信長の政権構想における天皇・朝廷の位置づけについて 平畑 典之

日根野荘における九条政基の荘園支配組織について 福田 正

長宗我部元親の領国形成の特色 古田 佳嗣

室町幕府開創期の尊氏と直義の権限区分について 三島 理帆

中世祇園会における山鉾の大型・風流化と町共同体の形成について 水本 暁子

「悪人正機」からみた親鸞の社会観 三橋 康平

南北朝期における河内国守護 盛田 一平

—楠木正儀の北朝帰参と軍事力の変化について—

織田信長の家臣団構成の変遷について 山中 智幸

—信長の馬廻衆を中心に—

「愚管抄」にみえる慈円の政治理念について 米田 雅代

☆ ☆ ☆

大塩平八郎の乱後における幕府の対応と民衆の動向

近世出版文化における統制と書林仲間 赤木 信也
近世奈良の被差別部落における皮革業と行刑役の展開 安部百合子

—奈良町東之坂を中心に— 上田 千秋

近世弘前藩の林政と地域山野の利活用 江川 将範

近世今井町の町づくり 大隈 和也

—時代の変遷による今井町—

火災都市江戸の防火対策 大松 功二

近世京都の心学講舎における救済活動と学習 奥岡 学

—京都における心学普及に関する一考察—

世界遺産観光と遺産の保護 貝本 篤史

—奈良公園を事例に—

街道と村落 梶田 恵司

—伊勢本街道を中心に—

長州倒幕活動における奇兵隊の役割 片山 智弘

—長州藩権力との関係から見る奇兵隊の特質—

藩政改革と山田方谷 川崎 貴志

近世後期における女性旅の実態について 川村有希子

近世都市の暖簾、看板の歴史的展開

小嶋 里枝

近世京都における町式目からみた

紀州徳川家十代藩主治宝の藩政改革

小林 梓

家持町人・借屋人間の自治の変容

参詣史料にみる中近世の民衆

小林 知基

近世大坂の町と住民生活

江戸町会所における都市下層民救済について

坂口 治

―町抱え「町代」の視点から―

幕末期における農業指導者の農事研究と普及活動について

柴田 英永

近世大坂における都市内交通

世界自然遺産における自然と人との関係について

神 尚喜

近世期の遊女の分化と展開

―近世屋久島を事例に―

神 尚喜

黒船来航をめぐる政治と民衆

戦後における平城宮跡保存の推移

武部 洋士

江戸幕府草創期における徳川権力の強化過程について

萩藩宝暦〜天明期改革と「撫育」

立石 智章

―ペリー来航をめぐる―

島原・天草の乱後の復興における政治と民衆

豊田 拓

近世における但馬円山川水運の発達と

徳川政権成立期におけるかぶき踊の成立と

長岡 暢子

周辺地域住民との関わり

「かぶき」の風潮

長岡 暢子

―円山川・市川の高瀬舟通船計画を中心に―

幕末ええじゃないかにおける民衆の行動と

西尾 麻未

幕藩体制確立期の京都民政における京都所司代役割

日常的組織の役割について

西尾 麻未

山本 智子

近世の参詣を通じて見た社寺と庶民

長谷部匡昭

☆ ☆ ☆

近世の女性と装飾

平野 愛

☆ ☆ ☆

近世大坂案内記の変遷について

細川 憲司

―会津藩教育と白虎隊を中心に―

近世奈良の社寺の役割について

堀江 真規

戦時下の初等教育について

―国民学校を中心に―

堀江 真規

安部 達郎

堀之内寛郎

松永 友和

溝口 幸子

宮武 宏和

宮谷 泰徳

陸奥田一見

森田 美晴

山本 智子

芦田 拓郎

安部 達郎

日露戦後、軍事救護法について

愛媛県における大正自由教育

戦後補償に関する歴史的考察

日本軍部の植民地経営について

黒澤映画における戦後日本社会

太平洋戦争と昭和天皇

鉄道業から見た日本の近代化

— 関西三私鉄の民鉄経営を中心に —

堕胎罪の成立について

白衛隊と旧軍人

蝦夷島政権について

明治期のコレラ流行と民衆の伝染病観

日本における普通選挙の開始

日本の近代演劇について

旧日本軍の組織論的考察

— 陸軍を中心として —

奈良における雅楽の変遷

加古川流域の地場産業の近代化

— 小野そらばんを中心に —

池田 一星

石田 典生

太田 直

上篠 雄樹

久葉 竜介

佐藤 真琴

篠原 竜治

炭山 朋子

瀧 賢太郎

谷本健太郎

野勢 真一

藤本 孝明

古田 公彦

松浦 一太郎

溝上なおこ

南 幸三郎

近代戦争の民衆の世論形成について

— 日露戦争について —

太平洋戦争開戦における海軍の失敗について

大正・昭和期の華族社会

— 徳川義親の行動を中心に —

大和における廃仏毀釈について

— 高瀬道常の廃仏毀釈観を中心に —

静岡県における空襲被爆状況に関する一考察

【東洋史】

石窟以前の敦煌

— 漢代の敦煌と玉門関について —

岳飛とその軍団について

北魏国家と仏教

— 廃仏から復仏における国家と仏教の変容 —

モンゴル帝国・元朝における中国統治

— 特に達魯花赤についての一考察 —

明末の文化人馮夢龍について

— 出版業とのかかわりと書物編纂の意図 —

宮原 和也

森 和徳

山上 節子

山本憲太郎

山本 将博

伊藤 玲子

今井 芳郎

大塚 和利

木原 信一

佐長 俊和

倭寇について

—密貿易をめぐる一考察—

城野 岳雄

遼王朝衰亡の過程

後漢時代における知識階層の動向

—儒学の官学化、諸生を中心にして—

萬浪 政之
三田村 裕

宋代の貨幣について

—鉄銭使用地域について—

森山 泰幸

漢代辺郡軍制について

—河西の防衛組織からみる軍統制—

山縣 奉史

宋代の流通組織

唐代藩鎮の軍構成

—団結兵についての一考察—

山場理恵子
山本 宗人

唐代における外国人の処遇と活動について

—新羅人を中心として—

渡邊 昌江

☆ ☆ ☆

康有為の大同思想についての考察

甲午農民戦争について

—農民戦争における東学の役割—

上村 純子
小森 佑生

滿蒙領有化計画について

明代中国に遺されたイスラム

佐藤 俊文
菅原 京子

「使琉球録」と尚真王朝の琉球王国

後藤新平の台湾植民地経営について

南京事件における虐殺の構図

二十世紀のチベット政治史について

—共産中国のチベット侵入—

高橋周一郎

中村 祐介

長尾 康平

牧浦 宏紀

【西洋史】

古代エジプトにおける来世観

—オシリス信仰と「来世の民主化」について—

天壽 祐美

スパルタクス蜂起

—スパルタクス蜂起をめぐる諸問題—

井上 智行

古代ローマの属州支配と共和政

アクエンアテンの宗教改革

古典期アテナイにおける悲劇とポリス・イデオロギー

井上奈緒美

河村 誠子

—他者意識の醸成—

古代ローマ帝国における見世物

古代エジプトの墓地労働者について

—デイル・アル・マディーナの共同体—

篠原 道法

炭本 静香

中村 祐子

古代ローマの奴隷の実像

平和 頼子

共和政ローマにおける市民権政策について

福江 孝夫

第一次世界大戦後の米欧関係

井手真由美

—都市制度との関連からみるローマ支配—

—賠償問題を中心として—

ヒットライト帝国

政岡 景子

マヤ文明の大変動期

岡田 晃

古代エジプトの結婚について

萬屋 尚子

—古典期マヤ文明の崩壊とその原因—

加持谷智子

—女性の地位と権利を中心に—

アメリカ先住民

加持谷智子

ギリシャの重装歩兵について

和田 学

—レッド・パワーの意義—

清水 淨意

竜にみる古代王権

小田 奉路

古代マヤ文明の宗教

藤井 亮

☆ ☆ ☆

イタリア中世都市国家の形成

喜來 雄二

—ユダヤ人を中心として—

町田 篤志

西欧中世における賤民の変遷について

嵯峨山俊道

ヴェルサイユ体制の終焉

松田 陽介

イタリアにおけるルネサンスの変遷

高橋 沙織

万国博覧会について

松田 陽介

スペイン王国の形成

二本 麻衣

—一九世紀におけるパリ万博—

十字軍運動の展開

平尾慎太郎

平成十三年度大学院修士論文(史学関係)

ヴァイキング社会について

深田 洋平

マリヤ・テレジアの改革とその時代

保喜 崇志

大和高取城に関する文献史学的研究

金松 誠

西欧中世の農村について

吉田 宗彦

十七世紀における江戸幕府の京都支配と切支丹取締

神田 雅子

十字軍の展開

沓水 純三

朝廷儀礼と豊臣政権

北堀 光信

ラテンアメリカの宗教

青木 徳之

—聚楽亭行幸の準備段階の分析から—

丹波矢田猿楽について

小西 寛子

中世柳酒の研究

澤田くみ子

—柳酒屋を中心に—

近世看板・暖簾と都市景観の形成に関する研究

杉江 裕子

受贈雑誌及び図書

〔二〇〇二年一月〕
〔二〇〇二年一〇月〕

雑誌

愛知大学総合郷土研究所紀要 第四七輯

愛知大学文学論叢 第一二六輯

青森県史研究（青森県史編纂室） 第六号

青山史学（青山大学文学史学研究室） 第二〇号

アカデミア（南山大学） 人文社会科学篇七三、七四号

アジア・アフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジア・

アフリカ言語文化研究所） 第六二、六三号

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所） 第二八号

アジア文化学科年報（追手門学院大学文学部アジア文化学

科） 第四号

AZUR（成城大学フランス語フランス文化研究会） 第

二号

岩手史学研究（岩手史学会） 第八五号

宇大史学（宇都宮大学史学会） 二〇〇一年号

エウローペー（成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化

専攻） 第一号

大分県立歴史博物館研究紀要 第三号

大阪市立大学東洋史論叢 第二号

鴨台史学（大正大学史学会） 第二号

鷹陵史学（鷹陵史学会） 第二八号

天津市歴史博物館研究紀要 第八号

お茶の水史学（読史会） 第四五号

海南史学（高知海南史学会） 第四〇号

日本学研究（金沢工業大学日本学研究所） 第五号

漢学研究通訊（漢学研究センター） 第八〇—八三期

神田外語大学日本研究所紀要 第三号

紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会） 第二二号

京都女子大学大学院文学研究科研究紀要 史学編 第一号

キリスト教史学（キリスト教史学会） 第五六集

熊本史学（熊本史学会） 第七八・七九号

ぐんま史料研究（群馬県立文書館） 第一七、一九号

- 神戸大学史学年報神戸大学史学研究会 第一六号
- 国士館史学（国士館大学史学会） 第九号
- 斎宮歴史博物館研究紀要 第一一号
- 堺研究（堺市立中央図書館） 第二九、三〇号
- 史園（園田女子大学歴史民俗学会） 第三輯
- 史学（三田史学会） 第七一卷第一・二・三号
- 史学研究集録（國學院大學大学院日本史学専攻大学院会）
第二七号
- 史観（早稲田大学史学会） 第一四六―四七冊
- 史泉（関西大学史学・地理学会） 第九五、九六号
- 史窓（京都女子大学史学会） 第五九号
- 史叢（日本大学史学会） 第六四―六七号
- 四天王寺国際仏教大學紀要 平成一三年度
- 史燈（熊本大学文学部日本史学研究室） 第九号
- 社会科学研究（中央大学社会科学研究所） 第二二卷二号
- 史友（青山学院大学史学会） 第三四号
- 就実女子大学史学論集 第一六号
- 秋大史学（秋田大学史学会） 第四八号
- 上智史学（上智大学史学会） 第四六号
- 資料館紀要（京都府立総合資料館） 第三〇号
- 史料館研究紀要 第三三号
- 神女大史学（神戸女子大学史学会） 第一八号
- 信大史学（信大史学会） 第二六号
- 人文学報（東京都立大学人文学部） 第三二五号
- 人文論集（静岡大学人文学部） 第五二号二冊、第五三号一冊
- 住友史料館報 第三三三号
- 西洋史論集（北海道大学文学部西洋史研究室） 第五号
- 専修史学（専修大学歴史学会） 第三三三号
- 創価大学人文論集 第一四号
- 双文（群馬県立文書館） 第一九号
- 高円史学（高円史学会） 第一八号
- 橘史学（京都橘女子大学歴史文化学会） 第一六号
- 地域研究いたみ（伊丹市立博物館） 第三一三号
- 近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第二二二号
- 千葉史学（千葉歴史学会） 第四〇号
- 中国水利史研究（中国水利史研究会） 第二九号
- 津田塾大学国際関係研究所報 第三六号
- 土浦市立博物館紀要 第一二二号
- 帝京国際文化 第一五号

帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第一七号

日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会） 第三

帝塚山大学大学院人文科学研究科紀要 第三号

四号

東海史学（東海大学史学会） 第三六号

日本モンゴル学会紀要 第三二二号

東洋史訪（兵庫教育大学東洋史研究会） 第八号

年報中世史研究（中世史研究会） 第二七号

東京大学日本史学研究室紀要 第六号

埴生野（四天王寺国際仏教大学日本語日本文化専攻） 創

東洋大学文学部紀要 第五五集 史学科篇第二七号

刊号

東洋文化研究（学習院大学東洋文化研究所） 第四号

白山史学（東洋大学白山史学会） 第三八号

徳川林政史研究所研究紀要 第二五、三六号

東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所） 第三四

奈良学研究（帝塚山大学奈良学学会） 第五号

号

奈良県立民俗博物館研究紀要 第一九号

兵庫教育大学研究紀要 第二二卷

奈良歴史研究（奈良歴史研究会） 第五七号

弘前大学国史研究（弘前大学国史研究会） 第一一一—一三

新潟県立文書館研究紀要 第九号

号

新潟県立歴史博物館研究紀要 第三号

広島東洋史学報（広島東洋史学研究会） 第六号

新潟史学（新潟史学会） 第四七、四八号

法政史学（法政大学史学会） 第五六、五七号

二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第一六集

法政史論（法政大学大学院日本史学会） 第二九号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第三二—三集

北大史学（北京大学出版社） 第四一—号

二松学舎大学論集 第四五号

北陸史学（北陸史学会） 第五〇号

日本研究（国際日本文化研究センター） 第二四、二五集

御影史学論集（御影史学研究会） 第二七号

日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）

三井文庫論叢 第三五号

第三三—号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第三

四卷第二号、第三五卷第一—五号

明大アジア史論集（明治大学東洋史談話会） 第六—八号

明代史研究（明代史研究会） 第三〇号

山口県史研究（山口県史編纂室） 第一〇号

横浜商科大学紀要 第八卷

横浜商大論集 第三五卷第一・二号

洛北史学（洛北史学会） 第四号

立教大学日本学研究所年報 第一号

立正史学（立正大学史学会） 第九〇、九一号

龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第一一七、一一八号

歴史（東北史学会） 第九七—九九輯

歴史学論集（山梨大学教育学部史学教室） 第二八、三五—三八号

歴史研究（愛知教育大学歴史学会） 第四八号

歴史人類（筑波大学歴史・人類系） 第三〇号

歴史と地理 第五四九—五五七号

図書

「明石原人」の発見者 直良信夫生誕一〇〇年展（明石市立文化博物館）

甘いもの好き殿様と和菓子展（虎屋文庫）

伊丹鴻池の歴史 近現代編（大手前大学史学研究所編 伊丹市役所）

近江東海道ガイドブック（近江東海道四〇〇年記念事業実行委員会）

小野市史 第六卷資料編Ⅲ

学習院大学史料館収蔵資料目録第一八号 西田幾多郎関係資料—付全集未収録書簡

学校法人橘女子学園一〇〇年史

漢学研究第一—一八巻総目録（漢学研究中心）

カンボジア語辞典（坂本義章著 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

旧御願塚村 篁惣一氏文書（二）（伊丹市立博物館史料集 六）

群馬県立文書館収蔵文書目録二〇 邑楽・館林地区諸家文書一（群馬県立文書館）

群馬県行政文書件名目録 第二三集 大正期学務編Ⅲ（群馬県立文書館）

富、権力、そして神（楠井敏郎著 横浜商科大学学術研究叢書）

富、権力、そして神（楠井敏郎著 横浜商科大学学術研究叢書）

富、権力、そして神（楠井敏郎著 横浜商科大学学術研究叢書）

富、権力、そして神（楠井敏郎著 横浜商科大学学術研究叢書）

内湾の自然誌 三河湾の再生をめざして（西條八東著 愛

知大学総合郷土研究所ブックレット四）

南北朝内乱と大津（大津市歴史博物館）

日・韓・中における社会意識の比較調査（仏教大学総合研

究所紀要別冊）

ふるさとを考える（愛知大学総合郷土研究所設立五〇周年

記念シンポジウム報告集）

豊後国安岐郷三（大分県立歴史博物館 国東半島莊園村落

遺跡詳細分布調査概報）

水の生活誌（印南敏秀著 愛知大学文学会叢書Ⅵ）

三井文庫所蔵史料第八集 主要帳簿目録（大元方等作成分）

（三井文庫）

森の自然誌 みどりのキャンパスから（市野和夫著 愛知

大学総合郷土研究所ブックレット三）

ヤマチャの研究（松下智著 愛知大学総合郷土研究所研究

叢書一五）

『奈良史学』第一号〜第二〇号総目次

■第一号（一九八三年十二月）

発刊の辞

論考 道照伝考

近代京都における町自治について

カール大帝の農業政策

書評 蕭啓慶著『元代史新探』を読む

—元代の士大夫の問題をめぐって—

■第二号（一九八四年十二月）

論考 信濃国の守護と国人の城下

慶長・元和期における政治と民衆

—「かぶき」の世相を素材として—

一九二〇年代における地主小作関係の一考察

—奈良県旧添上郡治道村の事例—

網法成立にむけて

—嘉靖・万曆期における積引問題—

菅野 正

水野柳太郎

山田 敦子

堀内 一徳

森田 憲司

松山 宏

鎌田 道隆

森元 文子

森 紀子

書評 Hans von Herwarth, Zwischen Hitler und Stalin,

Erlebte Zeitgeschichte 一九三二—一九四五

松川 克彦

■第五号（一九八七年十二月）

論考 石川年足と山田寺

堀池 春峰

聖武天皇勅書銅板と東大寺

鈴木 景二

ペルーの二重言語教育の二類型

青木 芳夫

特別寄稿 一九世紀末中国維新運動与日本

王曉秋著、菅野正訳

■第三号（一九八五年十二月）

論考 東大寺の柚絳宮と西塔の修造

—天徳三年の太政官牒と官符をめぐる—

辻本 弘明

武智麻呂と房前

辻 克美

五四前夜の日中軍事協定反対運動

菅野 正

史料紹介 ノジヤンのギベールの回想録（二）

—中世都市ランのコミュニケーション運動— 守山 記生

■第四号（一九八六年十二月）

論考 石井・ランシング協定の前提

明石 岩雄

日中軍事協定の廃棄について

菅野 正

史料紹介 ノジヤンのギベールの回想録（二）

—中世都市ランのコミュニケーション運動— 守山 記生

談話記録 西北研究所の想い出—藤枝晃博士談話記録—

藤枝晃述、原山煌・森田憲司編注

■第六号（一九八八年十二月）

論考 大坂観の近世的展開

鎌田 道隆

徳川和子の入内と藤堂高虎

久保 文武

藤原不比等の功封について

河内佐智子

フランク・メロヴィング王国の租税とインムニテー

堀内 一徳

史料紹介 小野川文庫漢籍目録稿

東洋史研究室編

■第七号（一九八九年十二月）

論考 鎌倉時代の守護所

松山 宏

大頭入衆日記考

朝倉 弘

清代の北京における菓子屋ギルド及び点心舗について

尾上 葉子

造幣人 (monetarius) と七世紀フランク王国の貨幣

経済

堀内 一徳

書評 陳垣編、陳智超・曾慶瑛校補『道家金石略』

森田 憲司

■第一〇号—奈良大学史学会十周年記念号—

(一九九二年十二月)

論考 紫微中臺と坤宮官

水野柳太郎

中世都市の条件について—不確な諸例—

松山 宏

初期幕政における二元政治論序説

鎌田 道隆

『廟学典禮』成立考

森田 憲司

林維源の福建勸業銀行設立計画をめぐって

菅野 正

東海道日岡峠における木食正禪の道路改修事業

安田真紀子

一五世紀後期におけるダラム司教座聖堂付属修道院のワインの調達と市場

森本 轟

一二世紀初期のフランドルにおける政変とエランバルド一族

守山 記生

中世前期における騎士の戦術と武装

堀内 一徳

ケチュア語のなぞなぞ—ペルー・クスコ地方を中心に—

青木芳夫／アンヘリカ・パロミーノ・青木

■第九号 (一九九一年十二月)

論考 日本霊異記上巻第五話と日本書紀

水野柳太郎

唐代州刺史研究—京官との関連—

長部 悦弘

西欧七世紀後半における領域的諸侯領の形成

堀内 一徳

日中戦争論ノート

明石 岩雄

紹介 松山宏著『中世城下町の研究』

朝倉 弘

■第二一号 (一九九三年十二月)

論考 山門公人の歴史的 성격

下坂 守

—『祇園執行日記』の記事を中心に—

京都改造—ひとつの豊臣政権論—

鎌田 道隆

一九〇〇年春、後藤新平長官の福建訪問について

菅野 正

マテオ・ガルシア・プマカウアの軌跡

―植民地時代末期ペルー社会の考察― 真鍋 周三

■第二号（一九九四年十二月）

論考 日本軍の中国中南部侵略―呂集団作戦について

日中戦争論ノート その2― 明石 岩雄

「大朝崇褒祖廟之記」再考

―丁酉年における「聖人の家」への優免―

森田 憲司

ケチュア語のことわざ―ペルー・クスコ地方を中心

に― 青木芳夫／アンヘリカ・パロミーノ・青木

アヴァール人とハンガリー人 堀内 一徳

■第一三号―松山宏先生退職記念号―

（一九九五年十二月）

松山宏先生年譜・論文目録

論考 奈良時代の太上天皇と天皇

中世熱田社の権宮司家

水野柳太郎

藤本 元啓

日本中世における身体技法について

横出 洋二

織豊系城郭以前 多田 暢久

奈良奉行川路聖謨の民政 鎌田 道隆

大阪博覧会（一九〇三年）と中国 菅野 正

西ヨーロッパ中世都市の形成 守山 記生

批評と紹介 水野柳太郎著「日本古代の寺院と史料」 渡辺 晃宏

■第一四号―堀内一徳先生退職記念号―

（一九九六年十二月）

堀内一徳先生年譜・論文目録

論考 一九二〇年代日中関係における「大蔵外交」の展開

―駐華大蔵財務官公森太郎の記録から―

明石 岩雄

近世都市における都市開発―宝永五年京都大火後の

新地形成をめぐる― 鎌田 道隆

「割関換遼」要求風説と湖南・禹之謨 菅野 正

オゴルマン「アメリカの発明」と現在 青木 芳夫

書評 守山記生著「北フランス・ベルギー中世都市研究」

鯖田 豊之

■第一五号（一九九七年十二月）

論考 中世前期の城下空間

松山 宏

大和国司興福寺考²

朝倉 弘

―春日若宮おん祭の創始―

「日本書紀」白雉四年の遣唐使記事について

南 友博

清末の中央官制改革について

永野 勝章

ポリス社会におけるプライバシーと インシァティ

ヴーJ・ハンターとD・コーエンの議論をめぐる覚書

北村（栗原）麻子

■第一七号（一九九九年十二月）

論考 町触と町規制にみる近世京都の借家人問題

近世京都における町会所の役割

―一八二九年法施行の背景―

イギリス首都警察改革再考

■第一八号―水野柳太郎先生退職記念号―

水野柳太郎先生年譜・論文目録

式部曹司庁の成立

論考

阿弥陀浄土院と光明子追善事業

十津川村・中利助日記抄 若林喜三郎

戊戌維新期の上海亜細亜協会をめぐる

菅野 正

―日系ブラジル人の事例を通して― 石田 信義

国際労働力移動に関する社会・文化的考察

近世京都における町会所の役割

武田 明子

碑記の撰述から見た宋元交替期の慶元における士大夫

森田 憲司

イギリス首都警察改革再考

林田 敏子

―一八二九年法施行の背景―

水野柳太郎先生年譜・論文目録

式部曹司庁の成立

阿弥陀浄土院と光明子追善事業

寺崎 保広

渡辺 晃宏

坂東 俊彦

古代建築部材の墨書と近世の俗信 鈴木 景二
歴史遺産の復元

―江戸時代のからくり玩具―

鎌田 道隆

資料紹介 「ペルー・ボリビア二重言語」異文化間教育―

教科書に見る―展について

青木 芳夫

書評 鎌田道隆著『近世京都の都市と民衆』

坂本 博司

■第一九号（二〇〇一年十二月）

論考 宇多院宣旨について

竹田 紀衣

『続日本紀』における叙位の欠落について

西本 英夫

曲阜地域の元代石刻群をめぐって

森田 憲司

一一二七―二八年のフランドルにおける政変とフランス国王の対応

守山 記生

史料 『奈良名所子供案内』

大学院近世奈良地誌研究グループ

■第二〇号―奈良大学史学会二十周年記念号―

（二〇〇二年十二月）

論考 「会集の日」小考

―武官の衣服と儀式―

寺崎 保広

阿波国名方郡条里の復元について

―幕末・明治維新期の在村研究者の論にもとづく―

丸山 幸彦

奈良奉行川路聖謨の植樹活動について 鎌田 道隆

王朝交代と出版―和刻本事林広記から見たモンゴル支配

下中国の出版―

森田 憲司

日露戦争後、満州還付をめぐって

菅野 正

アルケデモスの訴訟活動をめぐって

栗原 麻子

ペルー・アンデスの口頭伝承―十字架―

青木 芳夫

オータン司教レウデガリウス（六六三―六七八）の

錯覚―七世紀後半の司教による都市支配再検討―

杉浦 武仁